第17回

水道事業を考えよう

未来へ引き継ぐ　安全で頼れる水道をめざして

問合せ　水道課業務係　☎295－2112 内164

水道事業の経営状況をご理解ください

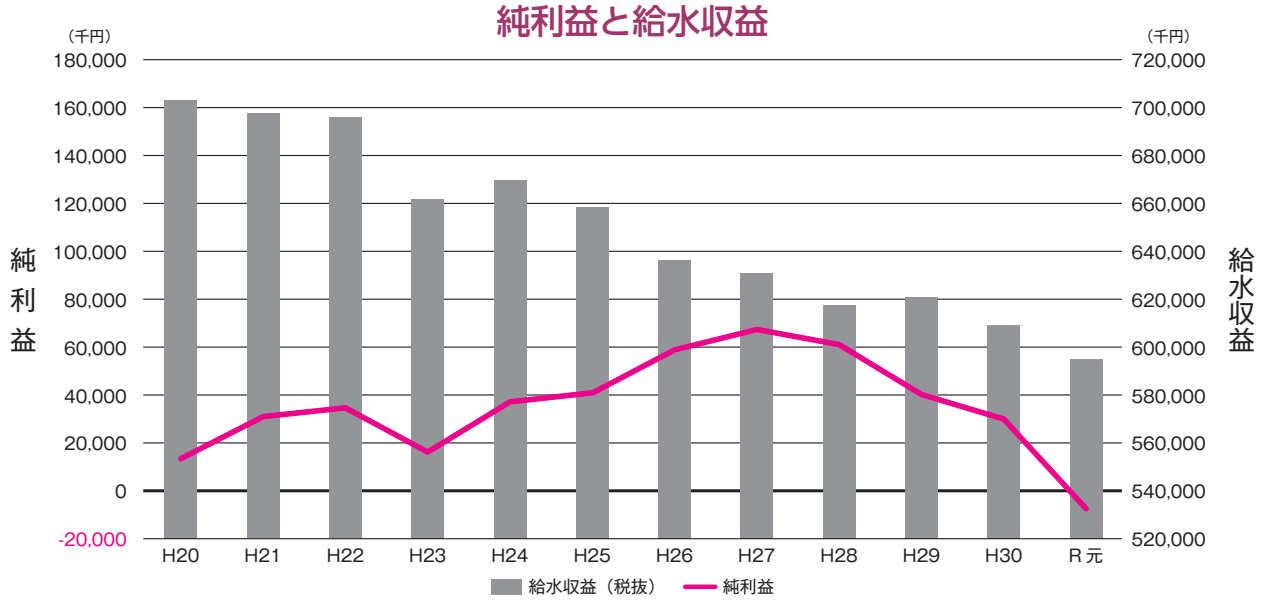
水道事業は、地方公営企業法の定めに基づき、皆さんからお支払いいただく水道料金によって必要な事業費を賄（まかな）う独立採算制となっています。

令和元年度決算は約700万円の純損失を計上し、平成12年度以来の赤字決算となりました。

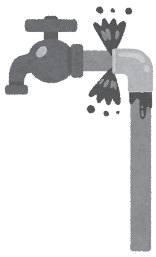
給水収益（水道料金収入）は年々減少し、平成20年度決算では７億283万円でしたが、令和元年度決算では５億9455万円となり、15.4％減少しています。（下記のグラフを参照）

経費については、係の統合による職員の削減や県から購入する水量の削減等を行い、経営の安定化に努めていますが、老朽化した水道施設の改修や更新がなかなか進まない状況です。

詳細については、次回（令和３年３月号）以降に、ご説明します。



注意　水道管の凍結にご注意ください！



凍結すると水が出なくなるだけでなく、水道管や給湯器が破損することもあります。

■水道管を凍結から守るためには

・水道メーターボックスの中には、布や保温材（発泡スチロールなど）を入れましょう。

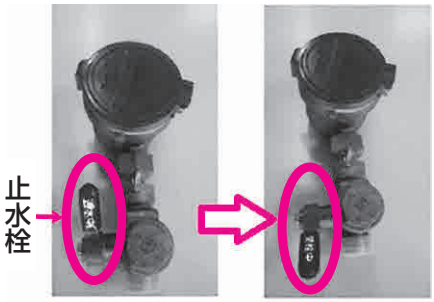
・露出した水道管や蛇口には、保温材を十分に巻き付けましょう。

■凍結した場合の対処方法

自然に溶けるのを待ちましょう。蛇口を無理にひねったり、熱湯を急にかけたりすると、破損するおそれがありますので、ご注意ください。やむを得ずお湯を使う際には、タオルなどをかぶせた上からぬるま湯をゆっくりとかけてください。

■破損した場合の対処方法

水道管が破損したら、指定給水装置工事事業者へ修理を依頼してください。修理業者が到着するまでの間は、水道メーターボックスの中にある止水栓を閉めれば水道の供給を止めることができます。マンションやアパートなどの集合住宅にお住まいの人は、それぞれの管理者へ連絡してください。



町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	1/12(火)、1/25(月) 2/9(火)、2/22(月)	13:30～16:00	役場会議室	役場総務課☎㊥313（要予約）
	行政書士	1/20(水)、2/17(水)	10:00～15:00	役場会議室	役場総務課☎㊥313
人権・行政相談		1/14(木)、2/12(金)	13:30～16:00	役場会議室	役場総務課☎㊥313（要予約）
成人健康相談		1/6(水)	9:00～12:00	保健センター	保健センター☎294－5511
		2/2(火)	9:30～11:30	役場1階町民ホール	
電話健康相談		平日	9:00～17:00	保健センター☎294－5511	
育児ほっと相談室		1/5(火)、2/1(月)	10:00～11:45	保健センター☎294－5511	
もの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00～12:00	中央公民館	地域包括支援センター ☎295－2112㊥126
子育て相談 なんでも話してみよう		1/8(金)、2月12日(金)	10:00～11:00	役場相談室	子育て支援センター ☎294－4820（役場相談要予約）
		1/22(金)、2月26日(金)		子育て支援センター	
教育相談		平日	10:00～16:30	教育センター☎295－2525（電話相談可）	
心配ごと相談		毎月第2・4水曜日	10:00～12:00	社会福祉協議会（ウィズもろやま内）☎295－3111	
消費生活相談		毎週火曜日	10:00～15:00	役場相談室	役場産業振興課☎㊥214
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30～17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所（ウィズもろやま内）☎080－2274－1445	

歴史散歩！

第319回

アイロンの移り変わり

昭和期に電気が普及してから、私たちの生活はとても便利になりました。とくに道具の進歩は目ざましく、今や電気を使わない生活の道具は少なくなりました。それでは電気がなかった時代の人々はどのような物を使っていたのでしょうか。今回はアイロンの歴史を例に道具が電化する移り変わりをみていきましょう。

日本における最初のアイロンは、火熨斗（ひのし）と呼ばれる道具です。火熨斗は柄杓（ひしゃく）のような形の金属の入れ物に炭火を入れて布に押し当て、炭火が金属に伝える熱と入れ物の重さで衣服の皺（しわ）をのばしました。火熨斗は江戸時代から昭和30年頃まで使われていたとされていますが、国内では、古墳時代の遺跡から火熨斗と似たような形のものが見つかっており、古代から使われていた可能性があります。

幕末には現在のアイロンの形の元になった鉄製の炭火式アイロンが外国から輸入され、明治時代以降に普及しました。炭火式アイロンは火熨斗と同様、炭火を使って衣服の皺をのばす道具でしたが、煙突と空気穴がつき、火熨斗にはできない火の調節ができるようになりました。また、蓋がついているため炭火が飛んで布を焦がす心配もなくなりました。

大正3年（1914）にアメリカから初めて電気を使ったアイロンが輸入され、翌年には国産の電気アイロンが発売されました。昭和の初め頃には安い値段で買えるようになり、初期の頃の電気アイロンは電源がついているだけで、温度調節はできないものでしたが、炭火を使うものより便利だったため家庭に広まっていきました。

電気アイロンは毛呂山では昭和30年代には使われていました。毛呂本郷のある家庭に導入された家電の歴史を見てみると、昭和34年（1959）から昭和40年（1965）にかけて白黒テレビ、ドライヤー、電気洗濯機と共に電気アイロンが使われるようになり、昭和30年代に多くの家電が入り、暮らしが大きく変わったことがうかがえます。アイロンはその後、昭和63年（1988）にコードレスタイプが発売され、現在の主流になりました。日常生活で使っている道具もあらためて歴史を調べてみるとおもしろい発見があるかもしれません。

炭火アイロン

火熨斗